

第16回 高校化学グランドコンテスト 協賛趣意書

高校化学グランドコンテストの様子

ポスター発表



口頭発表



“グラコン”に参加した高校生たちの奮闘記「高校生・化学宣言」が
毎年、遊タイム出版より刊行されています。



謹啓

皆様におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびは、「第 16 回 高校化学グランドコンテスト」の開催に伴い、皆様からのご支援を賜りたいと存じます。今年度は、最終選考会を 2019 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）の 2 日間にわたり、大阪市立大学杉本キャンパスにて開催します。

本コンテストの目的は、科学研究に取り組んでいる高等学校及び工業高等専門学校生徒が一堂に会し科学研究活動の成果を発表し交流する場を提供することによって、将来の科学技術の発展を担う人材を育成することにあります。好奇心にあふれ、ひたむきに研究をする生徒の成長に貢献することは我々の重要な社会責務と考え、2019 年度も大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学及び読売新聞社の四者による共同主催として開催します。また、本コンテストは、生徒がグローバルに活躍する能力を涵養するため、卓越した能力をもつ海外高校生を招へいして国際大会として開催しています。優秀な国内外の生徒が研究を仲立ちとして相互理解を深め交流する機会を提供することで、世界レベルで切磋琢磨するとともに互いのグローバル志向を強め世界に飛躍する科学人材として育つことを支援しています。

さて、本コンテストでは、生徒が参加に要する費用は基本的に自己負担としておりますが、遠方からの参加の場合、旅費の工面が本コンテストへ参加する上での大きな障害となっております。このような資金面での理由で将来有望な生徒が本コンテストへの参加を断念する事は主催者として大変残念です。そのため、発表を行うチームについては、できる限りの資金援助をしたいと思っておりますが、旅費の一部を補助するにとどまっております。本コンテストの発表件数は、2004 年初回コンテストでは 21 校・33 件でしたが昨年度は 76 校・124 件になり、急速に規模を拡大しています。しかしながら、多くの皆様のご支援もあり発表を希望する生徒全員にその機会を提供することを続けております。

本来であれば、コンテスト運営費用は主催団体が拠出するべきですが、発表件数の増加もあり難しいのが現状です。そのため、大学及び科学に深い関わりのある多くの企業・団体ならびに個人の皆様からの、資金面でのご支援をお願いしています。特に、生徒の参加費用は大学が直接支援することが会計法上難しいため、これまで多くの皆様の温かいご支援によって資金援助が成り立っております。

景気の先行きが不透明な昨今、このようなお願いを申し上げるのは誠に心苦しいことではありますが、本コンテストの趣意ならびに諸事情をご賢察いただき、ご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます次第です。

謹白

2019 年 6 月吉日

第 16 回 高校化学グランドコンテスト実行委員会
事務局長 小寄 正敏

第 16 回高校化学グランドコンテストの概要

1. 名 称 : 第 16 回高校化学グランドコンテスト

2. 開 催 日 : 2019 年 10 月 26 日 (土)・27 日 (日)

3. 開 催 場 所 : 大阪市立大学 杉本キャンパス

4. 主催団体など

(1) 主催

大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学、読売新聞社

(2) 後援実績 (第 15 回)

文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構、名古屋市、各都道府県教育委員会 (北海道、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、島根県、鳥取県、岡山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)、横浜市教育委員会、名古屋市教育委員会、大阪市教育委員会、公益財団法人永井科学技術財団、公益財団法人日本科学技術振興財団、大阪府立大学、首都大学東京、お茶の水女子大学、大学コンソーシアム大阪、南大阪地域大学コンソーシアム、中京テレビ放送 (株)、読売テレビ、高等学校文化連盟全国自然科学専門部

(3) 協賛実績 (第 15 回)

パナソニック株式会社、第一三共株式会社、株式会社遊タイム出版、シュプリング・ジャパン株式会社、公益社団法人日本化学会、英国王立化学会、一般社団法人日本化学工業協会、一般社団法人近畿化学協会、株式会社化学同人、株式会社東京化学同人、エーザイ株式会社、日本ガイシ株式会社、株式会社ノリタケカンパニーリミテド、HPC システムズ株式会社、日本ペイントホールディングス株式会社、株式会社リガク、日本メナード化粧品株式会社、株式会社島津製作所、株式会社モノクロナル抗体研究所、株式会社川本製作所、日本イーライリリー株式会社、東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海)、日本特殊陶業株式会社、株式会社八神製作所、TOTO 株式会社、大研科学産業株式会社、株式会社柴尾商店、八洲薬品株式会社、東京化成販売株式会社、株式会社南出理化商会、ナカライテスク株式会社、トヨタ自動車株式会社、愛知製鋼株式会社、株式会社テクノ中部、株式会社シーテック、中部電力株式会社、株式会社愛知銀行、株式会社Vソリューション、株式会社池田理化、東亜合成株式会社、東邦ガス株式会社、森永乳業株式会社、文珠システム株式会社、住友ベークライト株式会社、中部エア・ウォーター株式会社、JSR 株式会社、矢橋ホールディングス株式会社、株式会社豊田自動織機、住友化学株式会社、三井化学株式会社、岐阜工業株式会社、理科研株式会社、KHネオケム株式会社、株式会社計算力学研究センター、丸善出版株式会社、株式会社東研サーモテック、株式会社爆発研究所、十合刈谷酸素株式会社、イデア・インターナショナル株式会社、敷島製パン株式会社、株式会社浜島書店、株式会社ダイセル、株式会社新興出版社啓林館、株式会社ニデック、オザワ科学株式会社、株式会社デンソー、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社、カゴメ株式会社、豊田合成株式会社、Dan Lewis、大同大学、金印株式会社、株式会社カーク、久野金属工業株式会社、株式会社フロムページ、一般社団法人プラスチック循環利用協会、発泡スチロール協会

5. 高校化学グランドコンテストの目的

「高校化学グランドコンテスト」は、高等学校及び高等専門学校等の化学クラブの自由課題や、化学課程の課題研究等で行っている学習研究活動を支援し、高校生等自らが自主的な研究活動を楽しみながら科学的な創造力を培う機会を提供することを目的としています。本活動を通じて将来の科学者を育成することは社会貢献にもあたると考え、大学を挙げての運営を行っております。

本コンテストは 2004 年より始まり、今年で 16 回目となりますが、(1) 自らの習熟度に応じて科学の楽しさを体験し、創造力を培うという点及び(2) 第一線の科学者である大学教員が高校の教育者と直接連携して、高校生の自主的な学ぶ活動を持続的に支援する点に大きな特徴があります。

本コンテストでは、「発表することの大切さ」を体験・実感してもらうために、着眼点のユニークさと、習熟度または自主的研究の成果を発表する公の場（インターネット配信を含む）を提供し、優れた研究発表を行ったグループ・個人を表彰しています。表彰には最高の栄誉となる文部科学大臣賞をはじめ、各主催者賞、審査委員長賞、スポンサー企業による協賛者賞を設けています。

本コンテストでは、これまでの開催地である関西地方はもとより、2017 年度から名古屋市立大学と横浜市立大学が主催に加わり、関東・東海地方及び全国他都道府県においても、その高校生や高等専門学校の化学への関心を高め、科学教育のレベルアップを図ることを目指します。また、企業や社会的な影響力の大きな新聞社などにご協力いただき、より大きな事業となっております。学術団体からもご協力をいただいております。

6. 第 16 回高校化学グランドコンテストの概要

- ① 本コンテストは、エントリーした高校生による研究成果の発表の場であると同時に最終選考の場でもある。最終選考は、化学分野において第一線で活躍する大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学及び他大学の教育研究者、協賛団体の協力の下で行い、高校生との直接の議論も行いながら実施する。最優秀賞に文部科学大臣賞等、優秀賞は各主催者賞とし、金賞他いくつかのカテゴリーにもとづく多くの特別賞を準備する。
- ② 本コンテストは大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学及び読売新聞社の共同主催で実施し、各主催者より選出された実行委員からなる高校化学グランドコンテスト実行委員会が、関連研究者の協力を得て企画・運営を行う。
- ③ 共催新聞社は、事前に本教育事業の開催を社告にて自社新聞（朝刊）に掲載し、当日取材と特集記事（1 または 2 面、10 段記事／面、下 5 段スポンサー広告）を後日掲載する。
- ④ 他社新聞社など報道関係にも、最終選考会当日の取材は可能とする。ただし、ビデオ録画、放映などについては、共催側との事前協議の対象とする。著作権、知的財産所有権は、前例・慣行により主催（共催）者がもつ。
- ⑤ 本コンテストの後援は、文部科学省はじめ、大阪府、大阪市、関連学会などの学術団体等及び各都道府県教育委員会に広くお願いする。コンテストのスポンサーは、後援団体または協賛団体となっていく。
- ⑥ 本コンテストの全内容は、インターネットを通じてリアルタイムで配信し、高校等における e-Learning の一環としても活用し、各家庭でも視聴できるようにする。インターネット配信は、必要に応じて企業のプラットフォームを活用し、主催側が責任をもって行う。
- ⑦ コンテストの内容などは、教育機関をはじめ希望する個人または法人が鑑賞できるように、動画サイトに保存する。録画や編集、制作などは、高校化学グランドコンテスト実行委員会が責任を持って行う。

- ⑧ 本コンテストの開催については、開催実施要項が確定次第、共催側、協賛側、後援側、その他スポンサー側のホームページに掲載する。
- ⑨ 本コンテストの終了後、協賛・後援団体に対して決算を含む開催報告書として情報を開示する。
- ⑩ 参加申し込み方法：一般参加申し込みは、主催者において実施する。ただし一部を招待とし、高校などの課外活動の一環としての参加も可能とする。
- ⑪ 参加予定者数：900 名（2 日間の延べ人数）
- ⑫ 参加費：無料

7. 高校化学グランドコンテストの構成

（1）開催プログラム（予定）

10 月 26 日（土）

13:00～ 受付
 14:00～15:30 ポスター発表（前半）
 15:30～17:00 ポスター発表（後半）
 17:15～18:30 レセプションパーティー

10 月 27 日（日）

8:00～ 受付
 9:00～ 9:30 開会式
 9:30～12:10 口頭発表
 12:10～13:10 昼食休憩
 13:10～14:10 特別講演
 14:10～14:15 休憩
 14:15～15:00 口頭発表（海外招へい校）
 15:10～16:30 結果発表・表彰式

※ 時間は変更になる可能性があります。

（2）使用言語

日本語あるいは英語

（3）要旨集

講演要旨集を発行（第 15 回コンテストは A4 版 181 ページ）。協賛団体の広告を掲載。

（4）動画

コンテストの内容は動画サイトに保存し、教育機関をはじめ、希望する個人または法人がインターネットを通じて視聴。

8. 過去開催状況（直近 5 回分）

開催年	開催地	発表件数	参加校数	参加者数
2014 年（第 11 回）	大阪府立大学	67	40	680
2015 年（第 12 回）	大阪府立大学	71	51	640
2016 年（第 13 回）	大阪市立大学	71	45	599
2017 年（第 14 回）	名古屋市立大学	100	66	841
2018 年（第 15 回）	名古屋市立大学	124	76	1009

9. 組織

委員長	坪田 誠	大阪市立大学大学院 理学研究科長
副委員長	湯川 泰	名古屋市立大学大学院 システム自然科学研究科長
事務局長	小寄 正敏	大阪市立大学大学院 理学研究科 教授
監 事	中原 康弘	読売新聞大阪本社編集局 生活教育部長
監 事	篠崎 一英	横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 教授
委 員	中沢 浩	大阪市立大学大学院 理学研究科 特任教授
委 員	笹森 貴裕	名古屋市立大学大学院 システム自然科学研究科 教授

10. 問い合わせ先（事務局）

〒558-8585 大阪府大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学 社会連携課内

第 16 回高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局（担当：福永・大石）

TEL : 06-6605-3504 / FAX : 06-6605-3505 / E-mail : staff@gracon.jp

高校化学グランドコンテストホームページ : <http://www.gracon.jp>

11. ご支援を必要とする理由

本コンテストは、未来の日本経済の成長を担う全国の意欲的な高校生に加え、海外から優秀な高校生を招へいし、お互いに交流を深めて切磋琢磨する機会を提供することで、未来の化学産業を背負う学際的な高校生の育成の重要性を日本全国へ発信することも目的としています。

本コンテストの開催に必要な経費は、「12.総事業予算（概算）」の通りおよそ 920 万円です。主催団体である大阪市立大学、名古屋市立大学、横浜市立大学が 計 360 万円を負担し、前年度からの繰越金と合わせて今年度は約 500 万円の財源を用意することができました。

本コンテストの参加にあたって必要な費用は基本的には自己負担としていますが、コンテスト参加について保護者及びご家族のご理解ご協力を得るためには、参加高校生本人のみならず指導教員の監督と同伴が必須となり、特に遠方からの参加には多額の旅費が必要となります。経済的な理由で未来ある意欲的な高校生が本コンテストへの参加を断念せざるを得ない、という事態が懸念され、これは主催者として大変不本意なものです。そこで最終選考会で発表を行うグループについては、可能な限り旅費を補助することで、本来の趣旨に沿った本コンテストの実施が実現すると考えております。皆様からの協賛金（目標額 400 万円）は、旅費や滞在援助を中心に、コンテストの趣旨にのっとった運営を滞りなく有意義に進めるための財源として活用させていただきます。

12. 総事業予算（概算）

総予算	9,200,000 円
（内訳）コンテスト準備費	2,300,000 円
コンテスト運営費	2,850,000 円
旅費補助等	4,000,000 円
予備費	50,000 円

2019 年 6 月吉日
第 16 回高校化学グランドコンテスト実行委員会事務局
事務局長 小寄 正敏